

講評と所感

本事業は、北海道初のPFI事業であるだけでなく、これまで比較的「ハコ物」の案件が多かった中で、一般廃棄物最終処分場という土木主体の案件として、わが国初のPFI事業であることから、全国的にも大きな関心と期待を受けるものであった。

事業予定者の選定は「総合評価一般競争入札」により行うこととし、実施方針の公表から提案書の提出まで短いスケジュールであったが、多くの地元企業を含む8の入札参加者グループから提案を受けた。

各提案とも、施設の設計・建設・運営において、3町が直接実施する場合の事業期間を通じた3町の財政負担額（PSC）を下回るとともに、環境基準を含め、一般的な基準に比べて高く設定した技術的要求水準の要件を満たす内容であり、評価の各項目において創意工夫が認められた。

このような優れた提案の中で、「入札参加者グループ6」の提案は、

本事業の設計・建設、運営・維持管理、事業計画の各項目を通じて高い評価が得られたこと。

特に、実施体制において、参加企業それぞれの役割と責任を明確にするとともに、工事着工までの手続き等においても、信頼性の高い提案であると認められたこと。

また、地域の条件を踏まえた創意工夫に基づく提案により大幅なコストダウンを実現するとともに、資金調達面での工夫により、3町の事業期間を通じた財政負担の大幅な低減に寄与していること。

等が評価された。

その結果、入札価格が最も少ないだけでなく、提案内容の審査の得点が最も高いことから、総合評価値で1位となり、全会一致で最優秀提案として選定された。

今後、本事業を円滑に進めていくためには、事業契約に基づき、官民がそれぞれの役割と責任を果たしていくとともに、3町が本事業のモニタリングを適切に行っていくことが望まれる。

今回、留辺蘂町、置戸町および訓子府町の3町が北海道初、そして全国初の土木主体の本事業をPFI事業として実施した意義は大きい。また、最優秀案として選定された入札参加者グループはもちろんのこと、提案いただいた入札参加者グループの半数において、北海道の企業が参加されており、北海道特有の環境や条件を踏まえた創意工夫のある提案がなされた。

まさに、P F Iを通して、「民間と地方の知恵が、活力と豊かさを生み出す社会」の実現に向けての第一歩を、北海道の北東部に位置する合わせて人口2万人足らずの3町において踏み出したといえる。公共事業の削減に直面している北海道から全国に先駆けた事業を官民連携の中で模索し形成した意義は大きく、北海道の官民を通じた地域資源の潜在力の強さを示すものといえる。

P F Iは、公共サービスの提供において官民の役割を見直すとともに、民間が主体性を発揮できる範囲を広げ、公共サービスの質の向上を含めたV F M（バリュー・フォー・マネー）を実現するものである。さらに、P F Iは、官民の意識改革を実現するとともに、民間の企業家精神を喚起し新たな経済の活力を生み出し、自主・自律をめざした北海道の発展に寄与するものである。今後、一層、P F Iが適切に活用されることを期待したい。

平成14年1月

留辺蘂町外2町一般廃棄物最終処分場整備及び運営事業審査委員会
審査委員長 宮脇 淳